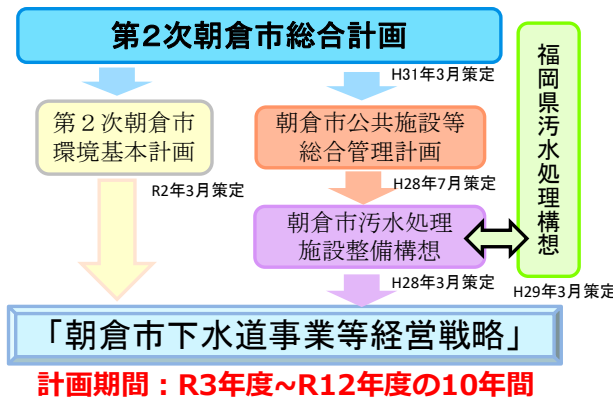


## 1. 下水道事業経営戦略策定の趣旨

本市は、流域関連公共下水道事業、特定環境保全公共下水道事業、農業集落排水事業、小規模集合排水処理事業、地域排水処理事業、特定地域生活排水処理事業と様々な汚水処理事業を行っています。これらは住民の日常生活に欠くことのできないものですが、施設の老朽化に伴う更新時期の到来や人口減少に伴う料金収入の減少等により、経営環境が厳しくなることが想定されます。

本経営戦略は、「第2次朝倉市総合計画」「福岡県及び朝倉市汚水処理構想」等の各種計画との整合を図りながら、今後の汚水処理事業の取り組みや目指すべき方向性を定めるとともに、中長期的な視点から検討・策定した投資・財政計画に基づ

く戦略的な経営を推進するための指針として策定するものです。



## 2. 下水道事業の課題

### ①未整備地域の解消

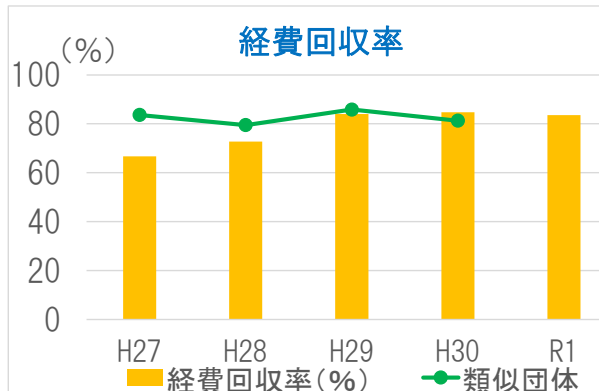
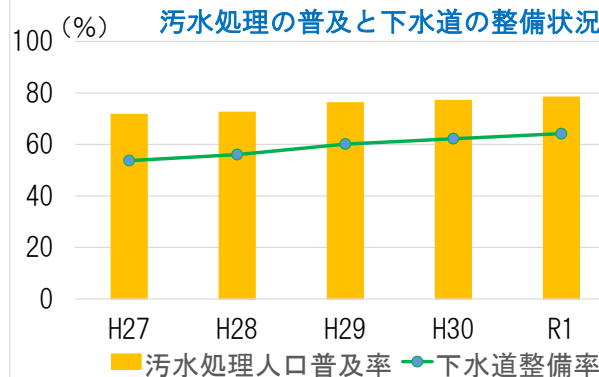
・令和元年度末現在、本市の汚水処理人口普及率は78.4%で、まだ整備が終わっていない地域があります。住民サービスの公平性を保つためにも、早急な整備が必要です。

### ②経営の改善

・経営状態を示す経常収支比率は100%を超えていることから、経営状況は良好であると言えます。しかし経費回収率（汚水処理費用に対する使用料による回収程度）は類似団体平均値（約80%）と同程度の水準にあるものの、目標値（100%以上）には至っていない状況です。

### ③施設の老朽化

・本市の最も古い汚水処理施設は平成8年から稼働しており、令和元年度末現在で23年が経過しています。今後、施設の更新が必要になってきます。ただし、本格的な施設の更新の多くは、令和16年度以降となる見込みです。



## 3. 経営の基本方針

### ①快適で安全・安心な生活の確保

・衛生的な生活環境に不可欠な下水道の未整備地域の解消を進め、処理区域の拡大を図り、快適なまちづくりを目指します。

### ②安定して持続可能な下水道経営

・人口減少の時代に入り、使用料収入の確保や施設の更新が必要となる中で、下水道事業を持続的・安定的に運営するために、経営の健全化を図ります。

## 4. 投資・財政計画

### (4-1. 投資計画)

#### ①早期の未整備地域の解消

・最優先課題として未整備地域の整備を行いますが、今後の経営を考慮すると、単年度の投資額を抑えていく必要があります。今後、経営状況を見て、計画どおりに投資ができるか慎重に判断しながら整備を進めていきます。

#### ②施設の老朽化対策

・ストックマネジメント（施設更新）計画に基づき、今後10年間については処理場の機械設備等の更新を行っていきます。

### (4-2. 財政計画)

#### ①使用料収入

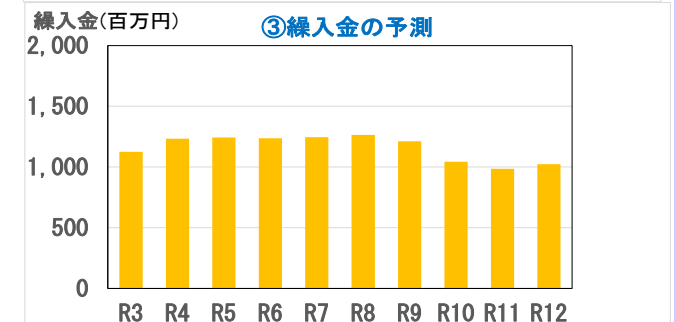
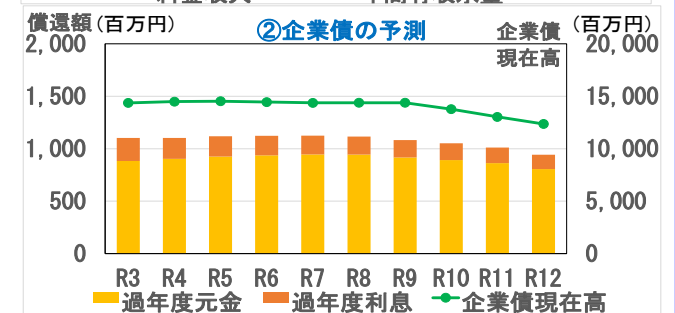
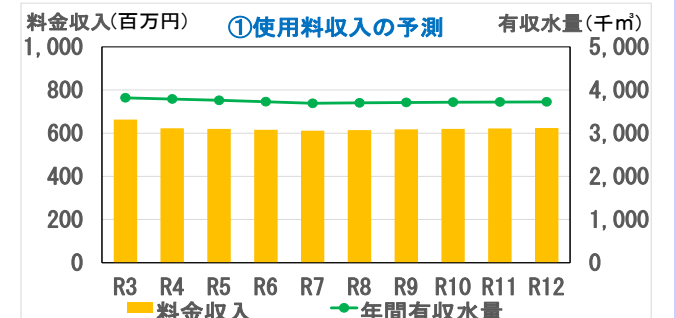
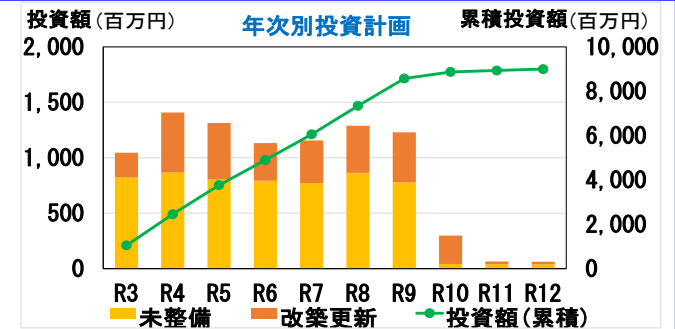
・当面は未整備地域の整備に伴う接続の増加と人口減少により、使用料収入は横ばいの見込みです。使用料設定は、近隣市町と同程度であり、しばらくは改定の必要がない見通しです。しかし将来の人口減少を見据え、接続奨励等により下水道利用者（＝接続人口）を増やし、使用料収入の増加を図ります。

#### ②企業債

・未整備地域の整備には企業債が欠かせません。しかし、償還の平準化を図る必要があることから、資本費平準化債についても必要に応じて検討します。

#### ③一般会計からの繰入金

・一般会計からの繰入金を必要としていますが、未整備地域の整備完了以降に繰入金は減少する見込みです。さらに新電力の活用、上下水道料金の納付書統合、不明水対策等、経費削減に努め、繰入金の抑制に努めていきます。



## 5. 経営戦略目標

### ①未整備地域の解消

・住民サービスの公平性を保つため、未整備地域の整備を最優先に進め、整備率（公共下水道の整備率）100%を目指します。

### ②経営の改善

・経営の安定化を図るため下水道への接続人口の増加に努めるとともに、経費削減の取り組みを行い、経費回収率100%以上を目指します。

### ③施設の老朽化対策

・ストックマネジメント計画に基づき、優先度の高い施設から計画的に改築・更新を実施し、進捗率（ストックマネジメント計画の進捗率）100%を目指します。

## 6. 経営戦略の進捗管理

・事業の進捗管理（モニタリング）を各年度末に実施し、単年度計画の見直しを行います。  
・経営戦略については、大きな変更が生じた都度、または最長5年ごとに見直しを行い、公表します。